

日本臨床微生物学会 論文投稿チェックリスト

1. 投稿原稿全体

- ☐ 表紙，邦文要旨，本文を独立したページにしている。
- ☐ ページ番号を原稿の下に最初のページから通し番号を付けている。
- ☐ 英文要旨は，英文による「タイトル，氏名，所属，要旨」で構成されている。
- ☐ 学名は，要旨と本文は別のものとして，最初に書くときは，属名と種形容名の両方を正式に記載している。また，その後の記載は，属名の頭文字のみを残し，種形容名を略していない。
例) 初回 *Escherichia coli*，2 回目以降 *E. coli*
- ☐ 学名はイタリック体になっている。
- ☐ 数字と数量（単位）は投稿規程に従っている。
- ☐ 試験試薬およびキット類について登録商品名を記載する場合は，正式名称を記載し，商品名のあとにカッコで会社名を明記している。[®]あるいは [™] は使用していない。
例) ○○キット（会社名）
- ☐ 略号が認められていない薬品名は，正式名称になっている。
例) SDS → sodium lauryl sulfate または sodiumdodecyl sulfate
- ☐ 本誌で最初から省略してもよい言葉は，略号になっている。

2. 邦文要旨

- ☐ 文字数は，投稿規定 I-3-2) に合っている。
- ☐ 投稿論文の特徴がわかるよう（掲載に値することがわかるよう），記述してある。

3. 英文要旨

- ☐ 文字数は，投稿規程 I-3-8) に合っている。
- ☐ 改行を入れず，1 パラグラフになっている。
- ☐ 英語表現は，英文誌を参考に作成され，英語の堪能な人に英語の添削をしてもらっている。

4. 材料と方法 または 症例

- ☐ 採取期間，採取方法，採取病院などが記載されている。
- ☐ キット，薬品などの発売元か製造元が記載されている。
- ☐ 他の人が追試験できるよう，方法が詳細に記述されている。
- ☐ インフォームド・コンセントを取って施行した研究であることが記述してある。

5. 結 果

- ☐ 図表が適切に使用され，結果が詳細に，わかりやすく記述してある。
- ☐ 本文中に，表や図の成績の単純な繰り返しの記載はない。
- ☐ 図表のタイトルは適切であり，わかりやすく作成されている。
- ☐ 表は，英文誌のように，縦線なしで作成してある。
- ☐ 写真は，結果が判読しやすいものになっている。

6. 考 察

- ☐ 結果と考察が矛盾していない。
- ☐ 結果を単純に書き直しただけの重複箇所はない。

7. 生成 AI および AI 支援技術の使用に関する申告

- ☐ AI を用いた場合は，「論文作成の手引き」【各項目の記載方法】(7) 生成 AI および AI 支援技術の使用に関する申告を参考に，その旨を記載している。

8. 謝 辞

- ☐ 謝辞は，参考文献の前，すなわち論文の末尾の独立したセクションにまとめて記載している。ここでは，研究中に支援（言語面でのサポート，執筆支援，校正など）を提供してくれた個人を記載する。また，謝辞に記載される個人は，資金源および潜在的な利益相反を開示しなければならない。臨床研究の実施や論文の作成において，利益相反があるとみなされる個人から有料サービスを利用した場合には，それらの個人の役割についても記述する必要がある。

9. 利益相反

- ☐ 著者全員の利益相反について記載している。

10. 引用文献

- ☐ 投稿規程に沿って記載されている。
- ☐ 文献の引用数（20 編が目安）は適切である。
- ☐ 番号の重複はない。
- ☐ 番号は図表中の文献も含め，引用順に付けられている。
- ☐ 要旨に文献を付けていない。

一般社団法人日本臨床微生物学会 編集委員会一同